

令和6年度 第4回（第7期第6回）新宿区産業振興会議 議事要旨

【日 時】 令和7年3月31日（月）午後3時～5時

【場 所】 B I Z新宿（区立産業会館） 研修室A

【出席者】 委 員：植田、遠山、長山、則竹、捧、笠井、窪川、富田、平山、篠崎、塩月、各委員
事務局：市田産業振興課長、吉田産業振興係長、齋藤産業振興主査、山本主任、住宅主任、村越主事、阿部主事

【欠席者】 なし

【傍聴者】 なし

【配布資料】 省略

【内 容】

1 開会

2 議事

（1）令和7年度産業振興課事業について

資料1及び参考資料に基づき事務局より説明をした。

（2）産業振興会議第7期報告書（案）について

資料2に基づき事務局より説明をした後、各委員から意見を求めた。主な発言内容については以下のとおり。

（主な発言内容）

- ・相談支援における専門分野の多様化について、専門領域や専門家の数が多いほどよいのは当然だが、現実的に無制限ではないため、まず多様化をどう捉えていくか整理した方がよい。
- ・専門家について、中小企業の業務内容や課題の多様化にどう応えていくのかを考えた上で、選定・配置をしていく必要がある。
- ・令和6年度までの区の相談支援である商工相談の実態として、融資と創業に関する相談が9割以上占めていたが、こうした利用状況を踏まえ、相談内容の精査や効率化等も考えていく必要がある。
- ・報告書（案）に「相談支援体制を常にブラッシュアップしていくためには（中略）自ら自己変革を繰り返しながら改善を図っていくことが求められます。」や、「複数の区職員も経営相談への同席や事務所への同行により、現場感覚を磨き」と記載があったがとても大事なことだと思う。
- ・スタートアップ支援の対象について、新宿区としてバイオ、観光、ファッション等、どこの分野にするかターゲットを決めた方がよい。
- ・融資相談のようなルーティン的な相談については、AI エージェントにするといった考え方もある。
- ・新宿でスタートアップする価値が出るように、これからスタートアップを目指そうとしている人たちにとってプラスとなるような方向性を示した方がよい。
- ・国と都と区では事業の規模感に差があるため、スタートアップだからといってJカーブを意識したものではなく、新宿の特性を生かした新宿らしさが含まれた、地元の産業とも結びつけていけるような支援の仕方が望ましい。
- ・誰でもわかる新宿らしさとして、報告書（案）にも記載されているが、交通の便が良く、人がすごく集まって息する場であることが、コロナが収束して改めて感じていることであり、そこで生み出される価値や想像力を軸にしたスモールビジネスやスタートアップ支援が他との差別化になると思う。
- ・新宿区としての方向性がないとあれもこれもとなってしまうため、例えば、国や都の支援が届いていない部分に絞り込むことが最初に必要なのでは。
- ・学生の中でも起業ニーズは高まっており、当たり外れもある中で光るものも確かに出てきている。そういった面で、報告書（案）に記載されているように区と大学が連携していくことは、新宿ならではの、何か新しいことができる可能性を秘めた事業だと思う。

3 次回日程について（予定）

日 時：令和7年6月

会 場：B I Z新宿